

すべては成長につながる

校 長 武井 正明

久々に一昨日の朝は静かな雨音で目が覚めた。

明け方、ようやく親父が夢に出てきてくれた。夢に出てきた父は、穏やかな笑顔だった。今日は佐藤池球場に親父の写真を連れていく。5月3日以来の一緒に野球観戦だ。天国から吉中ナインに力を与えてもらいたい。

まずは男子バレー県大会、柏崎総合体育館に急ぐ。

大逆転で北信越を決めたあの激闘から一年か…。昨年保護者会長を務めてくださったお父様が声を掛けてくださった。高1の彼は今、ハンドボール部で頑張っているという。元気にやっていることが何よりも嬉しい。思いっきり青春を満喫してもらいたい。

初戦の相手は黒埼。サウスポー5番の強烈なジャンプサーブや鋭角のアタックに苦しみながらも選手たちは粘り強く拾って繋いだ。結果的には2-0だったが、スコア以上に厳しい試合だった。勝負所を外さなかった吉中の粘り勝ちだったと思う。

続いて佐藤池へ走る。応援スタンドには、加茂クラブの人たちが加わってくださった。3人の吉中旧職員も駆けつけてくれた。ゲームは12時5分に始まった。

いきなり吉中のトップが外野オーバーの三塁打で先制パンチ。上手く転がす打撃で迎え入れ、これ以上ない形で先制点を奪う。しかしこの先制点が、吉中ナインの気持ちを「攻め」の平常心から、無意識のうちに、余所行きの「守り」にしてしまったのかもしれない。

反対に王者星稜は、思わぬ先制点を許したことで、一気に本気モードにギアチェンジした。打ち取った飛球に対する、ほんの僅かな躊躇が、プレーに迷いを持たせた。

迷いがミスと呼び、引き摺るうちにミスを重ねる。1回裏に逆転を許し、気づけば5点を失ってしまう。星稜の主将は、最初は捕手。本職ではないのに少しでもスキがあれば、1塁に矢のような送球を投げ、刺す。最終回はマウンドに上がり最速143kmを計測した。

結果被安打10、1-8の完敗。吉中の彼も最速133kmを記録したが、いつもの彼ではなかった。ただ、まだこれで終わったわけではない。二週間後にもう一度勝負できる。自分と向き合うにはちょうどいい時間だ。今度は私を福井に連れて行ってくれ。絶対に行く。

再び蒸し風呂のような熱気の体育館へ。私を発見した吉中OBが「新井から1セット取るなんてすごいですよ!!」と興奮気味に声を掛けてくれた。強豪新井に全く気後れせず、彼らは表情豊かに躍動していた。惜敗であったが、誇らしい戦いぶりだった。本当にお疲れ様。

帰宅後、通信の結果が気になりチェック。高跳びの彼女は140cm 8位入賞だ!!やった!!直前の故障と向き合いながら、この大舞台でよくぞ結果を出した。これも観たかったなあ…。

さあまだまだ今週末週と、県大会や大きなコンクールが続く。

そのすべてが、皆の成長につながっていく…。ひとつも無駄なことなどないのだ。

私も気持ちだけは一緒だ。可能な限り、君たちを追いかけていくぞ〜っ!!